

# 縄南道通信



平成30年 7月 1日 発行

2018年度 第4号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

くすは縄手南校 横小路校舎  
日比野 功

東大阪市立義務教育学校くすは縄手南校区教育理念

～縄南道による～二十歳の成人式に



当たり前前の行動を当たり前前に実行できる人の育成

「縄南道」の原点を今一度確認し、今が大きく前進する時！

～チャンス逃すな！チャンスは意識して掴むもの～

先日、大阪北部を震源に発生しました地震に関し、お亡くなりになられた方々に対し心よりご冥福をお祈り致します。また被災された方々、今もなお避難生活を強いられている方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

6月18日（月）、7時58分に大阪北部で震度6弱を観測する地震が発生しました。地震直後の情報で、東大阪市は震度4、近隣の市では震度5弱を観測する規模でしたので、横小路校舎では登校していた生徒はすぐに運動場に避難し、六万寺校舎と連絡を取り合い休校（東大阪市のマニュアルでは震度5弱以上が休校）を決めました。スマイルネットで、「登校している生徒は運動場に避難しています。自宅にいる生徒は登校を控えて下さい。小学校も同様に対応しています。」と第一報を流し、すでに登校している生徒の安全確認、随時登校する生徒の確認、あわせて校内の点検を行いました。その後、生徒を下校させる際には、スマイルネットがパンクして情報の提供が遅れたということがありました。一部の生徒が六万寺校舎運動場に小学生とともに避難し、横小路校舎に到着した生徒が運動場に到着した後、随時、こちらの指示のもと下校しました。縄手南校区では大きな被害が出ているという様子ではなかったため、こうした体制をとりましたが、今後については、「自宅に入れない生徒や保護者と連絡が取れない生徒」、また、「下校する際の地域ぐるみでの情報の徹底」等、地域全体で考えていかなければならない課題も多く見つかりました。東大阪市ではマニュアルに沿って通常通りの授業を行っていたところもあったようですが、最終的に午前11時頃、教育委員会より全校園休校の指示が来ました。

縄手南では日頃より「人格形成」を主体とした「縄南道」と呼ぶ教育活動を推進しています。特に「集団行動」には、重点をおいて取り組んでいます。地震発生当日も、生徒は、日頃の規律ある行動ができていたこともあって、ある一定の行動ができ、收拾がとれず指示も通らないという状況ではありませんでした。六万寺校舎に集まった児童・生徒も同様であったと報告を受けています。しかしながら、これではまだまだだめです。たまたま縄手南校区の状況が大きな被害を受ける状況ではなかっただけで、日常の「当たり前」のレベルをさらに高めていかなければならないと感じました。「休校」を伝えた時も、「学校が休みになった。勉強が無くなった。」くらいの意識で受けとめた者もいたと思います。学校が休校になるということは、とても大変な状況が起こっている、あるいは、予想されるということです。緊張感を高め、これから起こりうることをシミュレートできる力も当然必要です。

何事も、ある一定の時間、ある一定の練習を繰り返せば、それなりの結果を出すことはできます。しかしながら、高いレベルになれば、たった一回の雑なプレーが仇となることが往々にしてあります。苦しくても、自分が劣勢にたっていたとしても、常に一生懸命に、ていねいに、ひたむきにできるかどうか、勝負の分かれ目となります。苦しい時に、劣勢にたたされた時に、たった一回のいい加減な、適当な、だいたいである雑なプレーが、一瞬にしてこれまでの努力を崩してしまう結果となりえます。ですから「縄南道」では、勝つときには必ず「勝因」があり、負ける時には必ず「敗因」があるとし、「勝因」を創造する要素を「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」、「敗因」につながる要素を「いい加減」「適当」「だいたい」としています。さらに、「勝つ」ためには、「結果」が出るまでコツコツと積み上げる必要があります、時間がかかりますが、今すぐ誰にでもできることとして「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」があります。常に、「全力」を意識して「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」ができることが「勝因」、全力でない「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」は、まだまだ「敗因」であるということです。こうした「意識」を高めて日常の「当たり前」のレベルを高くしようとしています。

「運動会」という縄南道部全体で挑む「大会」では、それなりの結果を出せたと感じています。多くの方々から高い評価もいただきましたし、ご来賓で来られた野田市長からも「ぜひ、日本一を目指してください。」というメッセージをいただくこともできました。しかし完璧であったかと問われると決してそうではありません。それは、主役であった生徒たち一人ひとりが一番よくわかっていることだと思います。自分の最大限の力を発揮することをいつも目指して下さい。今回の地震発生直後の動きも、一人ひとりができる最大限のものではありませんでした。原因はやはり「意識」です。緊急避難を行って、学校も休校という状況です。大変な状況であるという「意識」が、適切な判断や行動に繋がります。どんな場面でも「意識」を高くして、当たり前のように最後までやりきる力を身につけてほしいと思っています。今一度、原点に戻って、明確に目標を設定し、多くのことを丁寧に積み重ねていかなければならないと感じました。

「縄南道」では「意識すること」を大切にしています。「意識する」ためには「考える」ことをしなければなりません。次は何をするのか、そのためには何を準備しておかなければならないのか、なぜ、今、このことを求められているのか、誰がこの状況をセットしてくださったのか等、考えることは限りなくあります。「意識する」ということは、「ただ何となく」とは明らかに違います。「意識」をすれば「行動」が変わります。変化した「行動」を継続させれば「習慣」が変わります。「意識」した「行動」が「習慣」となる訳ですから、当然、「当たり前」のレベルが変わります。こうして、日頃の「習慣」が変わり、「当たり前」のレベルが高まれば、当然、それに伴う「結果」も変わります。「意識」して全力で取り組むからこそ、うまくいかなければ「悔しい」という気持ちも沸いてくるものです。悔しければ、そこで立ち止まらないで、もう一度、前を向いて進めば良いのです。「失敗」とは良い結果に結びつかなかったことそのものではなく、「前進」や「挑戦」、「努力」をやめてしまうことです。全力で頑張ったのに、結果が出ないことは幾度もあるでしょう。結果を出すには、まだまだ時間が必要であったり、継続が必要であったりするだけのことで、少しの遠回りも時には必要です。縄手南は「日本一」を目指しています。「意識」を高くして、今の自分を振り返り、自分自身を高めて下さい。これが夏に挑む心がけです。

#### 部活動・コンクール・発表会等表彰

陸上部 中河内地区春季陸上競技大会

低学年女子 4×100mR 3位 57” 79 (加藤心花 8年 花見明日翔 7年 中村逢 7年 古川林樹 8年)  
日新高校英語暗唱大会 学校代表 戸田詩音(9年) 「Visas that saved human lives」